

児童発達支援事業所における自己評価結果(公)

公表: 24 年 5 月 14 日

事業所名 キッズいちえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		個人に合わせて調整を行っております。	
	2	職員の配置数は適切である	6		資格をもった職員を適切な人員で配置しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	2	パーテーションや机等で構造化し、分かりやすい環境になるように心がけています。	大きな段差や階段はないが、バリアフリーでないところがあります。必要に応じて個別の対応を行います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6		スタッフ全員で話をする機会を設けています	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		HPIに評価表の結果を公開し、サービスの向上に努めています。また、事業所内にも掲示しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	5		計画的に実施出来るように検討します。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		毎月1回の法人内研修に加え、外部での研修会に参加しています	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		保護者からの聞き取りと観察評価にてアセスメントを行い、支援計画を作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		標準化されたS-M社会生活能力検査とVineland- II 適応行動尺度を使用しています	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	1		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		スタッフ内で相談しながら行っています	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		課題内容等は四季のイベントに合わせて考え、固定化しないよう工夫しています	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		必要な確認、打ち合わせを行っております。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	1	スタッフ間で話合う機会を持ち、担当スタッフ以外の意見も反映させながら療育に取り組んでいます	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		予定の調整をし、児童発達支援管理責任者と担当訓練士が参画できるようにしています	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	2		必要に応じて行います
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	保護者からの要望があればカンファレンスへの参加や児童所見等の提供を行っております	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	保護者からの要望があればカンファレンスへの参加や児童所見等の提供を行っております	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		6		保護視野からのニーズがない為、機会をもっていません。必要に応じて対応します。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		6		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		療育を同室で見させていただきながら、その都度発達状況や課題についてお話させて頂いております。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	2	保護者交流会の際に研修会を開催し、保護者の方に対する支援プログラムを行っています。		
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6				
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6		保護者会を開催し、保護者同士の交流の機会をもっている	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		苦情対応のマニュアルを作成し、迅速に対応している	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		季節ごとに会報を発行しており、必要に応じてHPなどで発信している。また、InstagramやSNSを活用している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		現在は行っていませんが、必要に応じて対応します
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6		契約の際にお伝えし、閲覧できるようにしています	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		年に2回、定期的に行っています	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		フェイスシートを記入していただき、事前に確認しています	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		6		食事の提供を行っていない。支援の中で食べ物を使う場合は持参してもらっています
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		事例集を作成し、毎月全員で共有している	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			
	47	虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、その結果について従業者に周知徹底している	6		年に1回、研修会を開催し、参加しています	
	48	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6			必要な場合は保護者の方に十分に説明をしたうえで対応します。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。